

日本での交換留学

啓明大学教

チェアヨン

韓国の啓明大学教から来たチェアヨンと申します。日本に来てからまだそんなに時間が経っていない気がしますが、もう帰国するときに近づくなんで、少し残念に思われます。半年間の留学は短い時間でしたが、それでもいろいろと成長に向かう貴重な経験をする事ができてとても良かったと思います。

まずは、授業を通した経験について話します。私は日本語専攻者として、母校では学べない専攻に関連した授業を受講するため留学を決心しましたので、無理をしても多くの授業を取り、少しでも多く学ぼうとしました。海外での一人暮らしは初めての経験が多く、適応することは大変で、授業も最初は聞き取ることが精いっぱいだったのですが、次第に慣れるようになりとても有益な学びをたくさん得ることができました。特に記憶に残る授業は、言語と文化（日本事情演習5A）です。この授業では、私たち留学生と、お茶の水女子大学の皆さん、そして釜山外国語大学の方々が集まって、国家アイデンティティや日韓関係について話し合う活動をして、私としては、この授業を取らなかったら一生気付くことができなかつたはずのさまざまなことを気付かせてくれました。この授業で学んだ一番大切なことを言うと、向き合うことの重要さです。考えた全部をいうことはこの場ではできないので



すが、立ち向かうことを怖がる必要はないということを学んで、この授業を取って本当に良かったと思っています。また、専攻に関する正規授業も、最初の目標通り、母校では学べない、日本にいるからこそ学べる知識や意見を得ることができ、とてもうれしいです。特に、日本人向けの日本語・日本文学に関する授業という点で、外国人を対象にする授業では絶対学べない、様々な生きている意見が留学期間中の何よりも貴重な経験になりました。

次として、授業外の経験について話します。私は日本でしかできない経験と言えば、日本の伝統芸能を観覧・体験することだと思いました。そういう考えから、私はお茶の水女子大学のサークルである狂言研究会に入ったり、国際教育センターから主催するさまざまなイベントに参加したりしながら、最大限いろいろなことを経験しようと思いました。狂言研究会では、実際の狂言を観覧したり、毎週の普通稽古と一か月2回くらいの師範稽古を通して狂言について学んだりしました。国際教育センターのイベントは、歌舞伎鑑賞会のことが一番記憶に残ります。



最後に、留学期間中お世話になった方々へ感謝の言葉を伝えたいと思います。交換留学生担当の萩原章子先生、留学に関することだけではなく、生活面の情報も気にして教えて下さってありがとうございました。指導教官の石井久美子先生、お忙しいところにも、毎月の報告をお読みになり、アドバイスして下さい、そしてとても良い授業を経験させて下さって、本当にありがとうございました。